

講演会記録

愛知学院大学心理学部心理学科 心理学会講演会

アニメ『君の名は。』を読み解く——目に見えないものの力

日時：2022年12月20日（火） 13:30～15:00

場所：1301教室

講師：山 愛美（京都先端科学大学 教授）

本講演会は心理学会が発足して第1回目の講演会である。心理学部の学生、心身科学研究科心理学コースの大学院生、心理学部及び本学附属心理臨床相談センターの教職員、合わせて約160名が参加した。

講師の山先生は臨床心理学がご専門で、深層心理学の視点から多数の書籍と論文を執筆されている。本講演会は山先生の著書「心理臨床家がよみとく『きみの名は。』」に基づき、新海誠監督のアニメ『君の名は。』にみるさまざまなテーマを取り上げ、深層心理学的な視点から説明された。

『きみの名は。』の物語は、主人公の三葉と瀧の出逢いの質の変化を軸として展開されている。二人の出逢いは以下の過程を辿っている。1) はじまり：「入れ替わり」の時期、2) 繋がらない時期、3) 御神体の中で、4) 初めて「三葉」と「瀧」として出逢う、5) 互いの想いを知るが、名前は記憶から消えていく。彗星の落下、6) 漠然と「誰か」ひとりを探しているという思い、7) 出逢い。相手の名を尋ねる。

講演会では二人の出逢いの段階に沿って物語の概要を示しながら、「心と体」「生と死」「境界」「時間」「記憶」「夢」などのテーマの解説が行われた。たとえば、「心と体」を考えたとき、人のアイデンティティは外見である「体」を基準にしているのか、それとも、自分自身が感じている己としての「心」を基準にしているのか、あるいは両者の融合なのか。両者が一致しないときに、自分のアイデンティティとどのように向き合うのか。このような人の深層心理について触れて問題提示された。

榎原雅人